

2. 緑被地の推移

2-1 区全体の緑被地の推移

平成27年度（第8次）調査と令和2年度（第9次）調査の緑被地等の面積及び緑被率の推移を表3-16、図3-10に示す。

緑被地面積全体では9.02ha増加し、緑被率は17.48%から17.98%となった。変化の内訳では、樹木・樹林面積が2.35ha、草地面積が3.51ha、屋上緑地面積は3.15haの増加であった。緑被地以外では、裸地・空地面積が1.35haの減少、水面面積が0.28haの増加であった。

樹木・樹林が増加した主な要因は、開発事業等の完了によって、新たな緑地が整備されたことによる。個人住宅の樹林地が建築計画等によって消失している事例も確認されているが、大規模な開発事業において整備される緑地面積規模は大きく、減少面積よりも増加面積が大きくなったことから、区全体の樹木・樹林面積は増加となった。

草地の主な増加要因は、国立競技場建築に伴う芝グラウンドの整備、学校の校庭芝生化等である。また、建築物の除却後に更地となった土地が草地化し、草地面積が増加している箇所も多く確認されている。

屋上緑地の増加面積は、樹木・樹林面積の増加よりも大きい。大規模な開発事業や施設等の建設では、面積規模の大きい屋上緑地が整備されたことによるものである。

水面面積は本調査では増加しているが、水面上を覆う樹木・樹林が減少したことによる。

表3-16 緑被地等の面積の推移

緑被地等区分	平成27年度 (第8次)		令和2年度 (第9次)		平成27年度→ 令和2年度 増減	
	面積(ha)	率(%)	面積(ha)	率(%)	面積(ha)	率(ポイント差)
緑 被	319.14	17.48	328.16	17.98	9.02	0.49
樹木・樹林	275.31	15.08	277.67	15.21	2.35	0.13
草地	34.77	1.90	38.28	2.10	3.51	0.19
屋上緑地	9.06	0.50	12.21	0.67	3.15	0.17
裸地・空地	27.66	1.52	26.31	1.44	△1.35	△0.07
水 面	7.89	0.43	8.17	0.45	0.28	0.02

*面積、割合は小数第3位を四捨五入しており、集計値があわない場合がある。

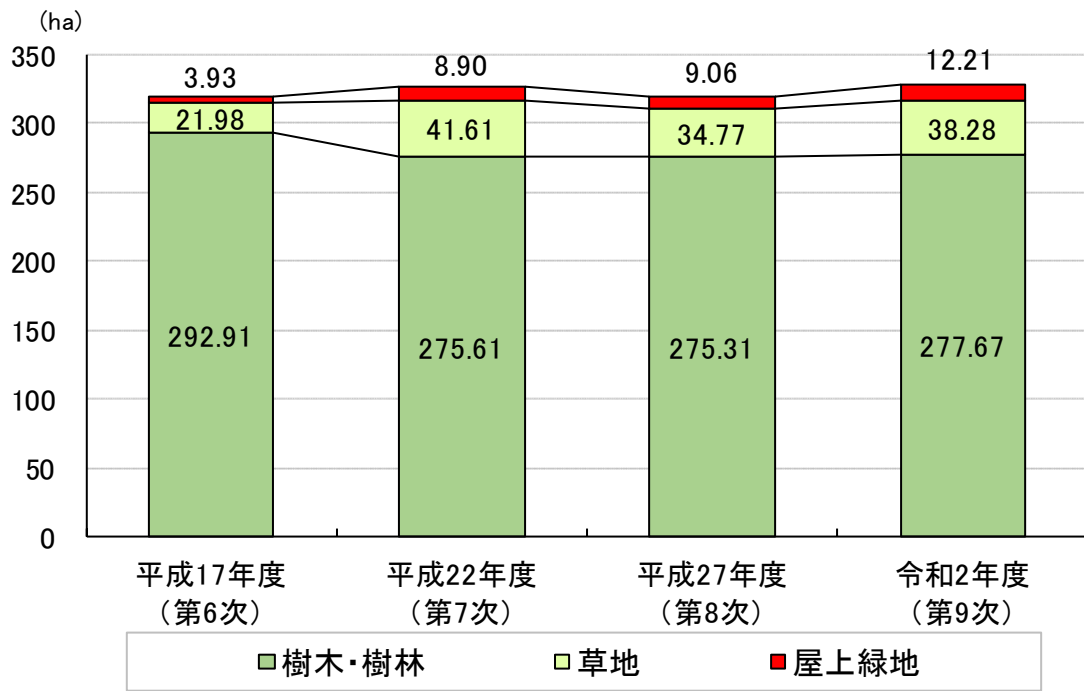


図 3-10 緑被地面積の変化

2-2 地域別の緑被地の推移

平成27年度（第8次）調査と令和2年度（第9次）調査の地域別の緑被地面積の変化を図3-11、表3-17に示す。

緑被地面積は戸塚地域と落合第一地域が減少、その他の地域は増加であった。樹木・樹林では落合第一地域、戸塚地域、若松地域、落合第二地域、大久保地域が減少、草地では新宿駅周辺地域、笹筥地域、榎地域が減少、屋上緑地は全ての地域が増加であった。新宿駅周辺地域の草地の減少は、平成27年度（第8次）調査では街路樹の植え込みの低木を草地としたが、令和2年度（第9次）調査では樹木・樹林としたことによる。

樹木・樹林では落合第一地域の減少が3.27haと最も大きい。集合住宅の面積規模の大きい樹林地が消失したほか、住宅地内にある面積規模の小さい樹林地の消失も多数確認されている。若松地域では大学等の施設における建築物の建替え等に伴う減少、都営戸山ハイツアパートの樹木の樹冠面積が縮小したことによる減少であった。一方、面積の増加が最も大きい地域は笹筥地域であった。増加の主な要因は、大規模な開発事業により、新たに樹木・樹林が整備されていることによる。

草地面積の増加が最も大きい地域は大久保地域で、1.46haの増加であった。大規模開発事業等による芝生地の整備によるものであった。

屋上緑地面積が最も増加した地域は四谷地域、次いで若松地域、笹筥地域であった。四谷地域では、四ツ谷駅前の大規模開発事業、国立競技場の建築に伴う増加であった。若松地域では大学内の建替えに伴う増加、笹筥地域では開発事業に伴う増加であった。

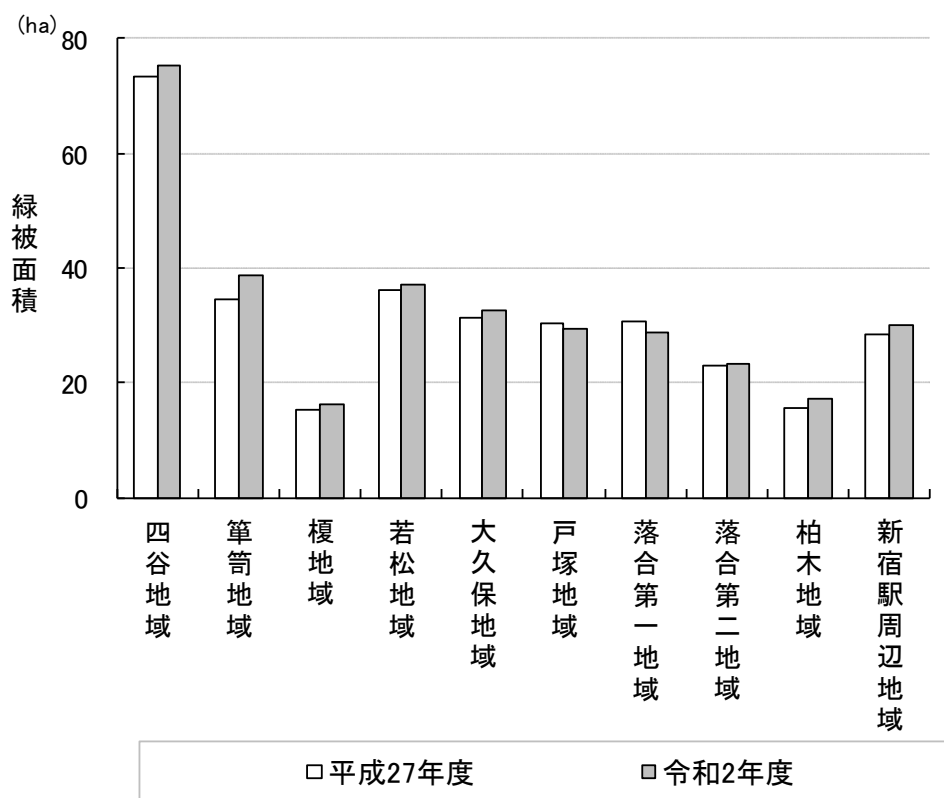


図3-11 地域別緑被地の変化

表 3-17 地域別の緑被地変化

地域	調査年度	緑被地 (ha)	緑被率 (%)	樹木・樹林	草地	屋上緑地	変化率
				(ha)	(ha)	(ha)	
四谷地域	平成27年度	73.47	22.67	58.59	13.23	1.65	102.53
	令和2年度	75.33	23.41	59.12	13.79	2.41	
	増減	1.86	0.74	0.53	0.56	0.77	
箆笥地域	平成27年度	34.61	15.64	28.17	5.05	1.40	111.63
	令和2年度	38.64	17.33	32.19	4.53	1.92	
	増減	4.03	1.69	4.02	△ 0.51	0.52	
榎地域	平成27年度	15.28	10.98	13.78	0.99	0.51	105.30
	令和2年度	16.09	11.54	14.65	0.85	0.59	
	増減	0.81	0.57	0.88	△ 0.15	0.08	
若松地域	平成27年度	36.02	23.12	32.00	2.76	1.25	103.01
	令和2年度	37.10	23.54	31.38	3.79	1.93	
	増減	1.08	0.41	△ 0.62	1.02	0.68	
大久保地域	平成27年度	31.23	15.13	28.24	2.37	0.62	103.99
	令和2年度	32.48	15.68	27.69	3.83	0.96	
	増減	1.25	0.56	△ 0.55	1.46	0.34	
戸塚地域	平成27年度	30.45	17.34	27.81	1.98	0.67	96.40
	令和2年度	29.35	16.77	26.40	2.17	0.79	
	増減	△ 1.10	△ 0.56	△ 1.41	0.19	0.12	
落合第一地域	平成27年度	30.84	19.43	27.50	2.73	0.61	93.04
	令和2年度	28.69	18.13	24.23	3.72	0.74	
	増減	△ 2.15	△ 1.30	△ 3.27	1.00	0.13	
落合第二地域	平成27年度	23.06	14.91	21.09	1.57	0.40	101.37
	令和2年度	23.38	15.14	20.51	2.46	0.41	
	増減	0.32	0.23	△ 0.58	0.88	0.02	
柏木地域	平成27年度	15.68	12.33	13.70	1.35	0.64	109.39
	令和2年度	17.16	13.52	14.70	1.51	0.94	
	増減	1.47	1.19	1.00	0.16	0.30	
新宿駅 周辺地域	平成27年度	28.50	17.55	24.43	2.73	1.33	105.09
	令和2年度	29.95	18.49	26.79	1.63	1.52	
	増減	1.45	0.94	2.36	△ 1.10	0.19	
区全体	平成27年度	319.14	17.48	275.31	34.77	9.06	102.83
	令和2年度	328.16	17.98	277.67	38.28	12.21	
	増減	9.02	0.49	2.35	3.51	3.15	

*変化率は第8次調査の緑被地等の面積を100とした場合の第9次調査の緑被地等面積の指数。

*面積、割合は小数第3位を四捨五入しており、集計値があわない場合がある。

①四谷地域

(緑被地面積+1.86ha、樹木・樹林+0.53ha、草地+0.56ha、屋上緑地+0.77ha)

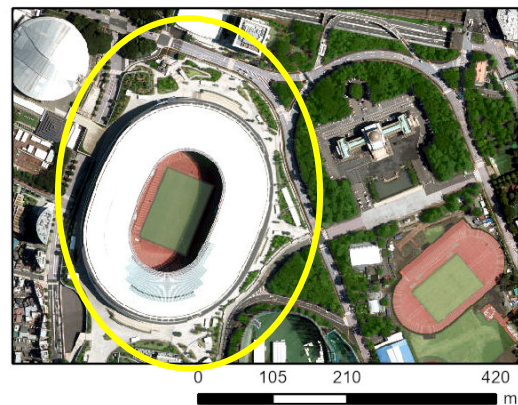
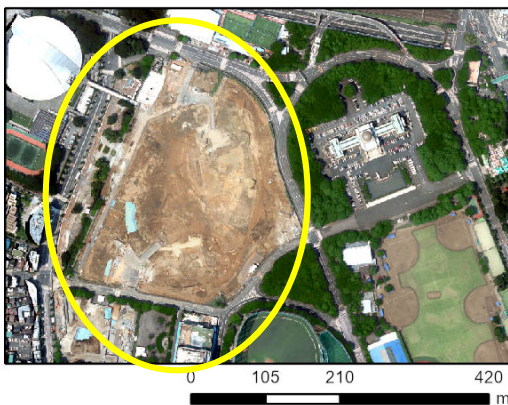
四谷地域では、全ての緑被項目(樹木・樹林、草地、屋上緑地)が増加しており、緑被率は0.74ポイント増加した。主な増加箇所は、国立競技場建設に伴う芝グラウンドと競技場周辺の緑地整備によるものであった。また、四ツ谷駅前の開発事業によって、樹木・樹林、屋上緑地が新たに整備されている。一方で、民間施設の建替え等に伴う樹木・樹林地の減少が確認できた。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

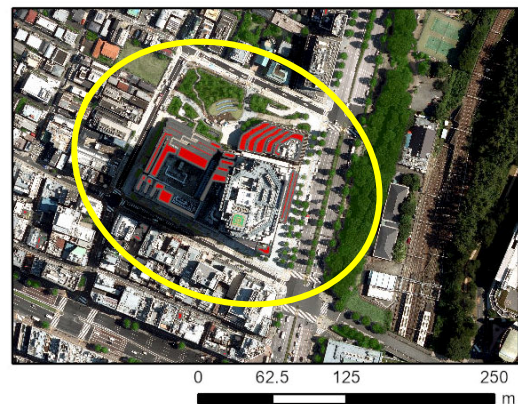
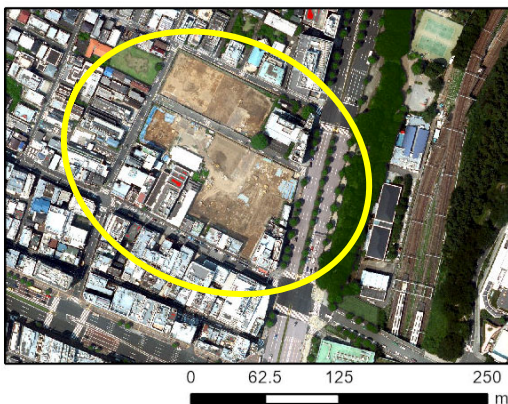
※各地域における緑被地の増減箇所は空中写真に緑被データを重ねたものである。

霞ヶ丘町 国立競技場 (増加：草地、減少：樹林)

左：H27、右：R2

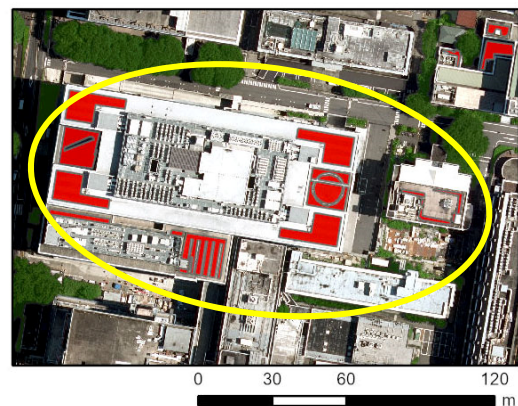
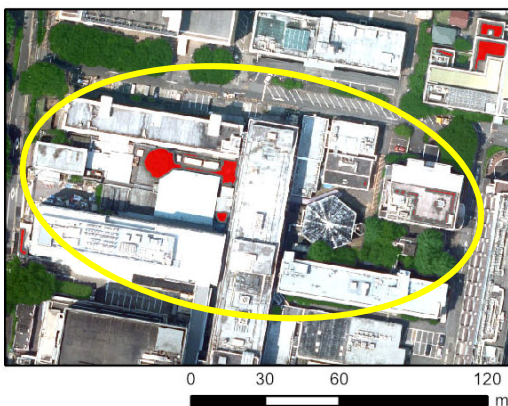


四谷本塩町 CO・MO・RE YOTSUYA (コモレ四谷) (増加：樹木・屋上緑地) 左：H27、右：R2



信濃町 慶応義塾大学病院 (増加：屋上緑地、減少：樹林)

左：H27、右：R2



② 笹笥地域

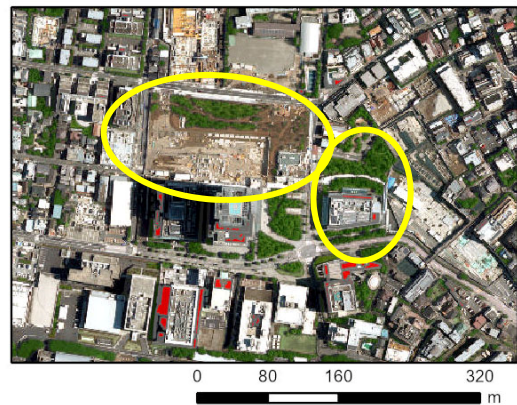
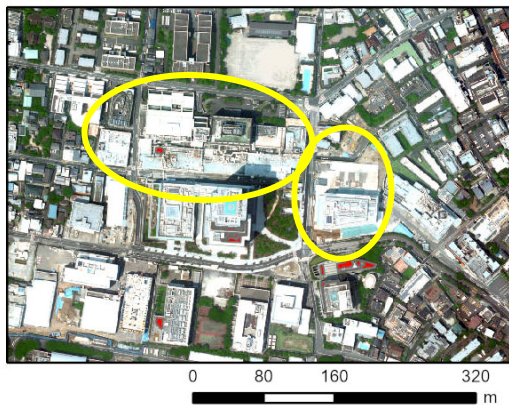
(緑被地面積+4.03ha、樹木・樹林+4.02ha、草地-0.51ha、屋上緑地+0.52ha)

笹笥地域は、樹木・樹林面積と屋上緑化面積が増加し、草地面積は減少した。緑被面積では4.03ha増加し、緑被率では1.69ポイント増加した。主な増加箇所は、大日本印刷の大規模な再開発事業による新たな緑地の整備である。また、既存の樹木・樹林の生長による増加箇所も確認できた。再開発事業では新たに屋上緑地も整備されている。草地面積の主な減少要因は、集合住宅の建替え、建築による未利用地の草地の減少であった。また、外濠沿いの樹木が生長したことにより、樹木面積の増加と草地面積の減少が確認できた。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

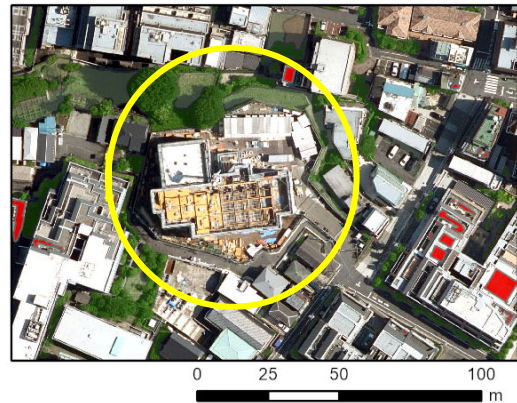
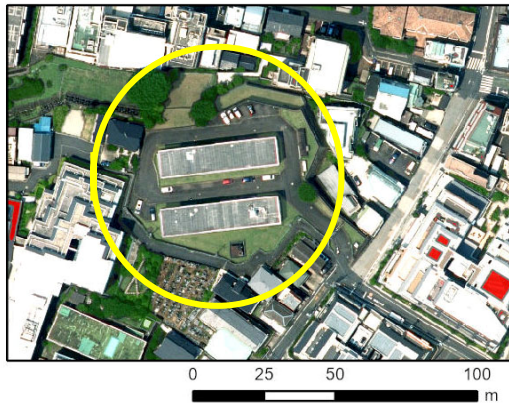
市谷加賀町一丁目 大日本印刷市谷工場整備 (増加：樹林)

左：H27、右：R2



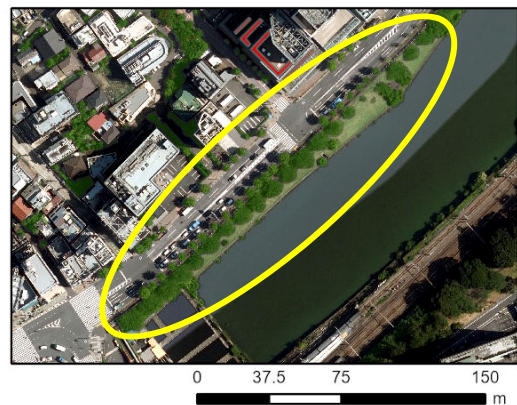
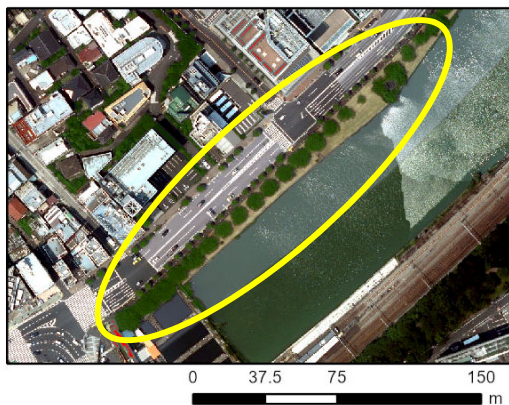
赤城元町 建替え (減少：草地)

左：H27、右：R2



市谷田町一丁目 外濠 (増加：樹林)

左：H27、右：R2



③ 榎地域

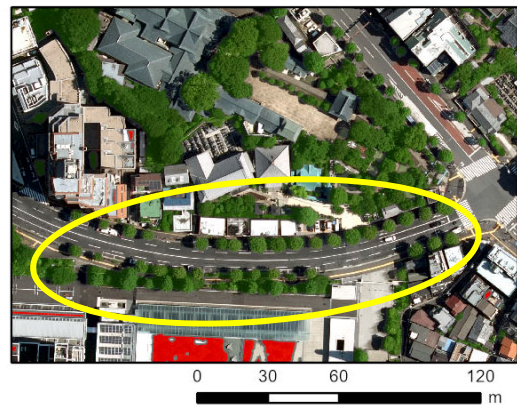
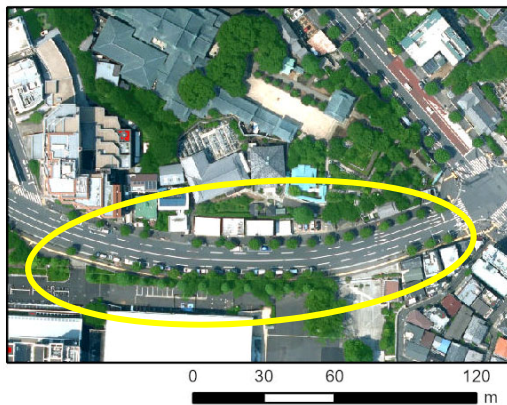
(緑被地面積+0.81ha、樹木・樹林+0.88ha、草地-0.15ha、屋上緑地+0.08ha)

榎地域では、樹木・樹林と屋上緑化は増加し、草地は減少した。緑被地面積では0.81ha増加し、緑被率は0.57ポイント増加した。主な増加要因は、街路樹の生長による樹木・樹林の増加であった。また、榎地域北東部において、未利用地の建築計画によって草地の減少が確認できた。外苑東通りの街路樹は、東京都による無電柱化と道路拡幅工事により、樹木の減少箇所が見られたが、今後は街路樹整備が計画されていることから、一時的な消失であると考えられる。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

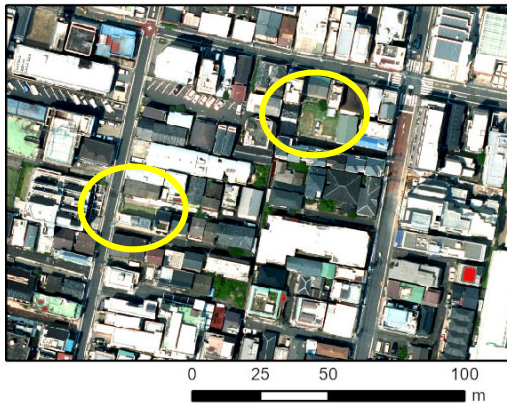
西早稲田二丁目 諏訪通り (増加：樹木)

左：H27、右：R2



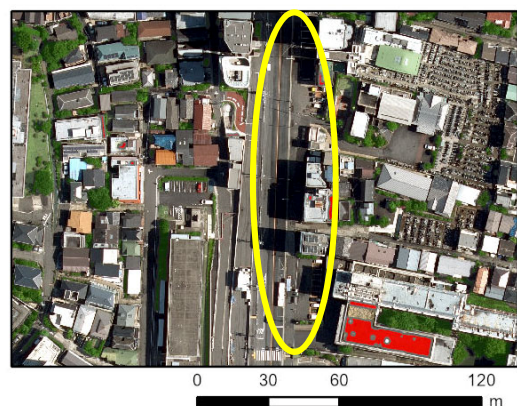
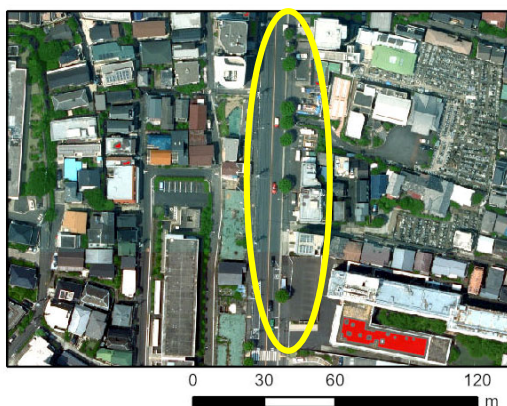
改代町・水道町 更地での建築 (減少：草地)

左：H27、右：R2



弁天町 外苑東通り (減少：樹木)

左：H27、右：R2



④若松地域

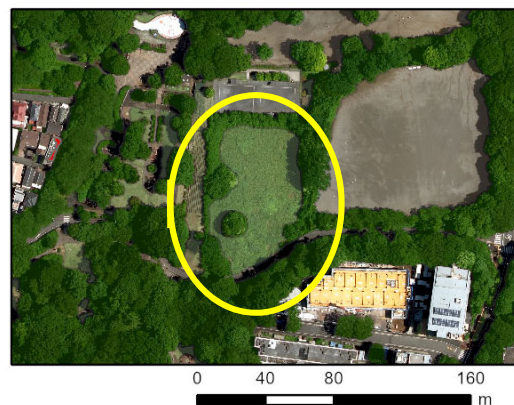
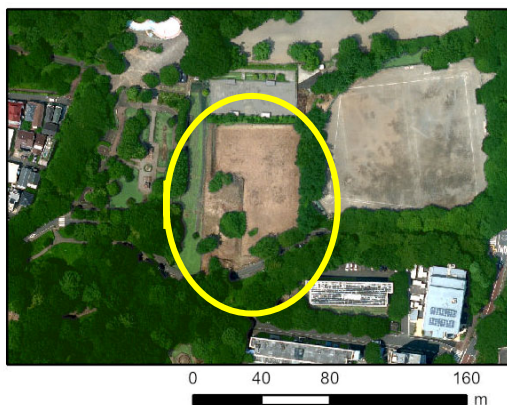
(緑被地面積+1.08ha、樹木・樹林-0.62ha、草地+1.02ha、屋上緑地+0.68ha)

若松地域では緑被地面積 1.08ha、緑被率 0.41 ポイントの増加であった。草地在 1.02ha、屋上緑地が 0.68ha 増加し、樹木・樹林は 0.62ha 減少した。樹木・樹林の主な減少の要因は、大学施設や住宅等の建替え、環状第 4 号線の道路整備によるものであった。草地の主な増加箇所は、戸山三丁目の土裸地の草地化であった。また、早稲田大学の早稲田アリーナ (37 号館) の建替えでは、屋上緑化が新たに整備されており、屋上緑地面積の増加要因となっている。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

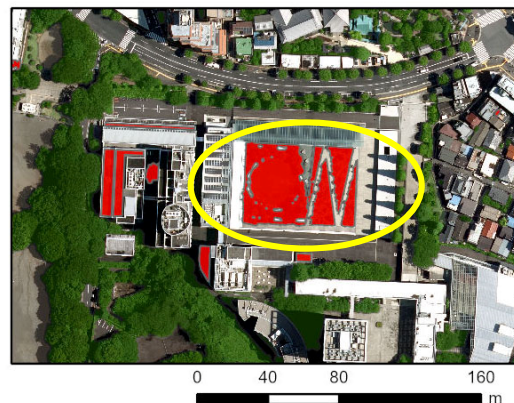
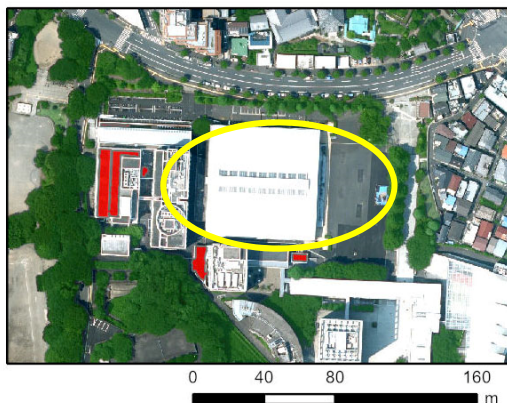
戸山三丁目 草地化 (増加：草地)

左：H27、右：R2



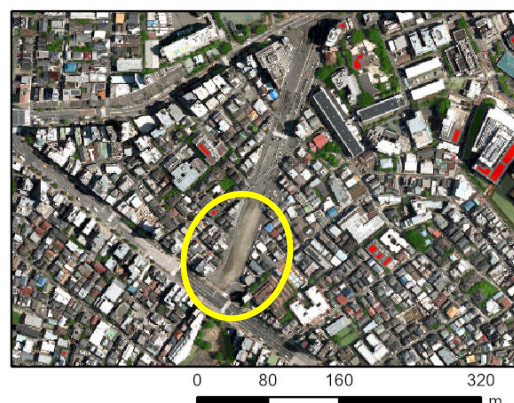
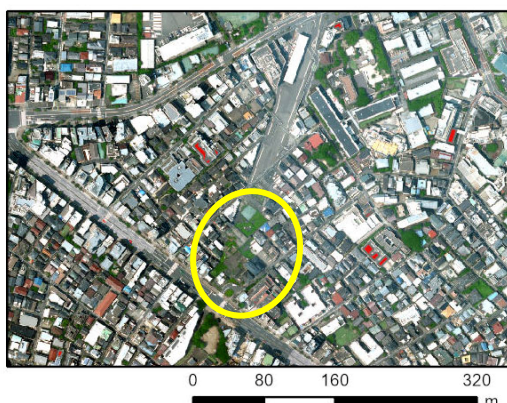
戸山一丁目 早稲田大学 (37 号館) (増加：屋上緑地)

左：H27、右：R2



余丁町 環状第 4 号線の道路整備 (減少：樹木)

左：H27、右：R2



⑤大久保地域

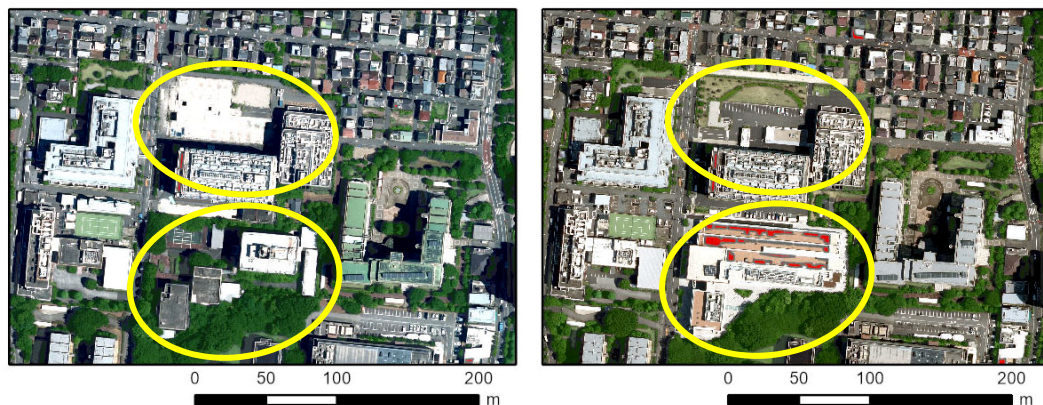
(緑被地面積+1.25ha、樹木・樹林-0.55ha、草地+1.46ha、屋上緑地+0.34ha)

大久保地域では、草地在1.46ha、屋上緑地在0.34ha増加し、樹木・樹林が0.55ha減少した。緑被地全体では1.25ha、緑被率0.56ポイントの増加であった。主な増加箇所は、東京都健康安全研究センターの駐車場整備に伴う草地の増加、桜美林大学新宿キャンパスの建築に伴う屋上緑化の増加であった。その他民間施設の建築計画に伴う樹林や草地の増加も確認されている。一方、大久保通りでは街路樹の剪定等による樹冠面積の縮小が確認された。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

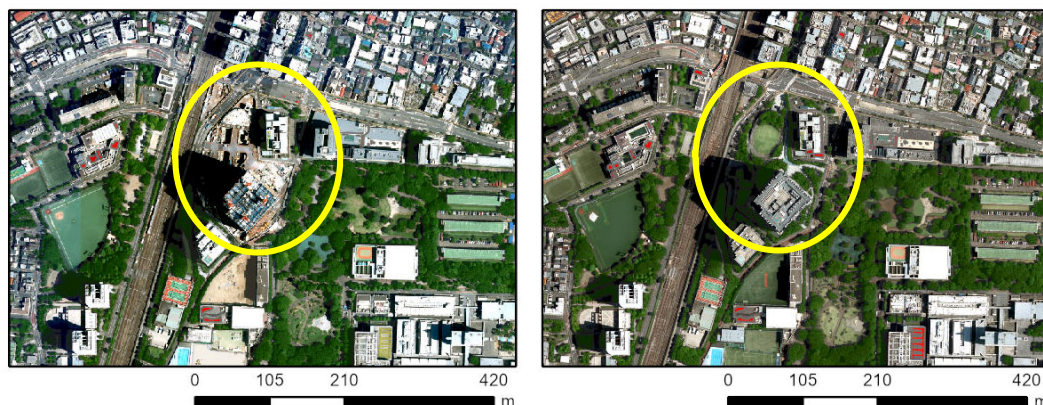
百人町三丁目 東京都健康安全研究センター駐車場整備(上)、
桜美林大学新宿キャンパス(下)

(増加：草地・屋上緑地、減少：樹木) 左：H27、右：R2



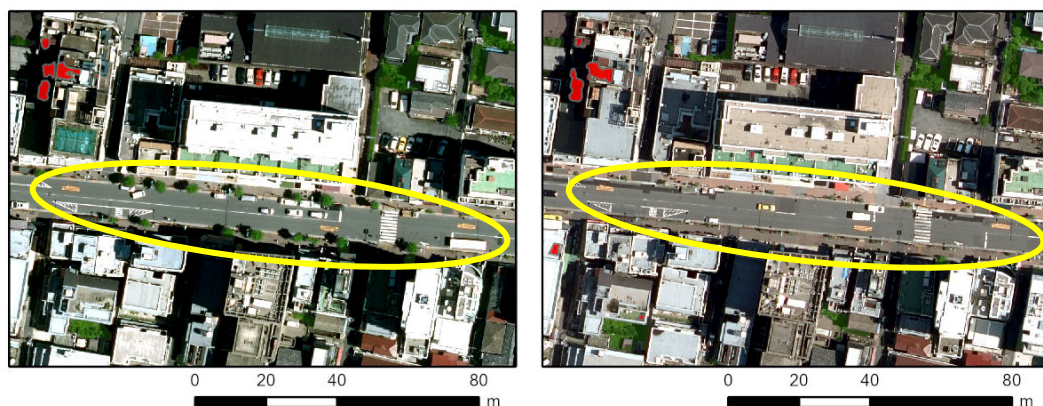
大久保三丁目 新宿ガーデンタワー (増加：樹林・草地)

左：H27、右：R2



大久保二丁目 大久保通り (減少：樹木)

左：H27、右：R2



⑥戸塚地域

(緑被地面積-1.10ha、樹木・樹林-1.41ha、草地+0.19ha、屋上緑地+0.12ha)

戸塚地域の緑被地面積は1.10ha、緑被率は0.56ポイント減少した。樹木・樹林は1.41ha減少し、草地は0.19ha、屋上緑地は0.12haの増加であった。樹木・樹林の主な減少要因は、大学内の樹木や早稲田通りの街路樹の樹冠面積の縮小、住宅の建替え等に伴う樹木の伐採によるものであった。草地の増加は更地の草地化による増加であった。また、屋上緑地の主な増加箇所として、東京富士大学の屋上緑地整備が確認できた。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

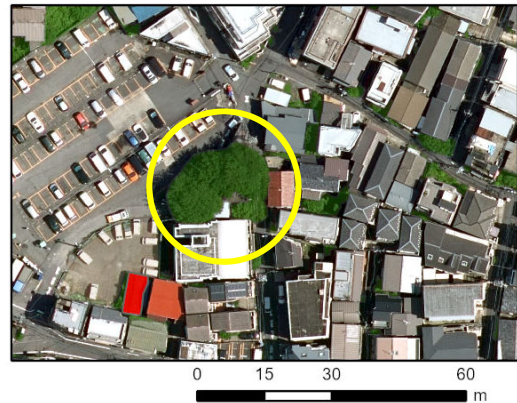
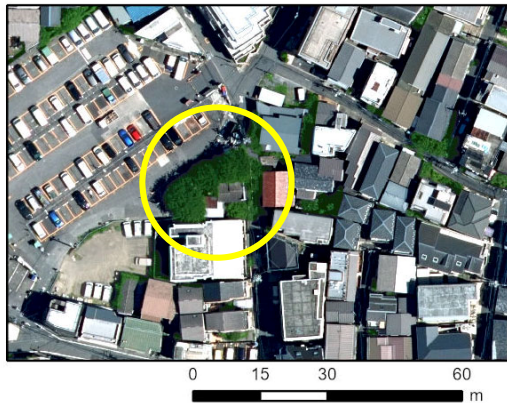
西早稲田二丁目 建替え (減少：樹木・草地・屋上緑地)

左：H27、右：R2



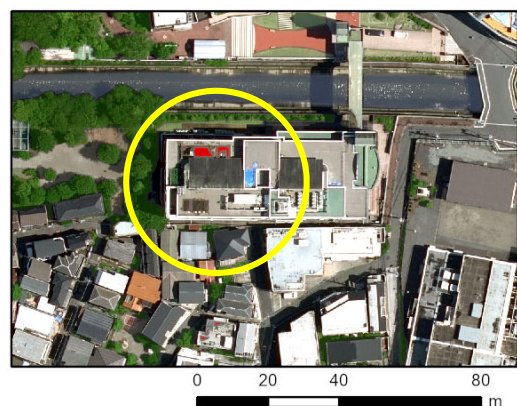
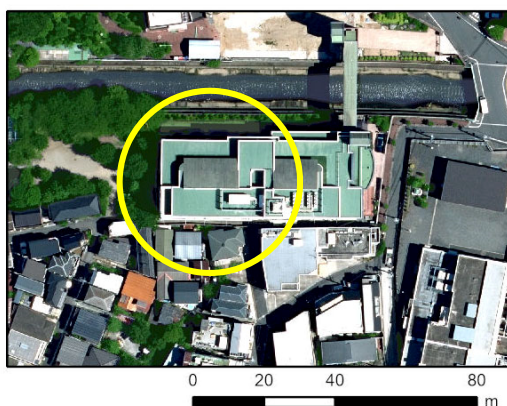
高田馬場三丁目 (増加：樹木)

左：H27、右：R2



高田馬場三丁目 東京富士大学本館 (増加：屋上緑地)

左：H27、右：R2



⑦落合第一地域

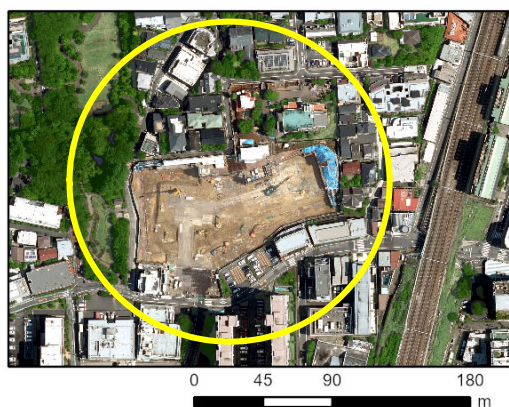
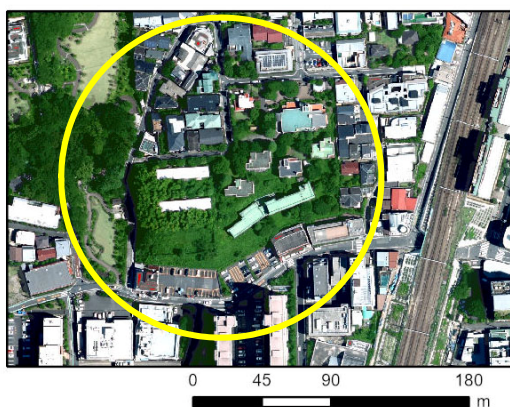
(緑被地面積-2.15ha、樹木・樹林-3.27ha、草地+1.00ha、屋上緑地+0.13ha)

落合第一地域は樹木・樹林が3.27haの減少、草地1.00ha、屋上緑地0.13haの増加で、緑被地全体は2.15ha、緑被率は1.30ポイントの減少であった。主な樹木・樹林の減少要因は、建築計画に伴うものであり、大規模な樹林の消失のほか、小規模な樹木・樹林の消失も多数確認できた。また街路樹の樹冠面積の縮小による減少も確認できた。また、主な屋上緑地の増加箇所は、下落合図書館の屋上緑地であった。

凡例：  樹木  草地  屋上緑地

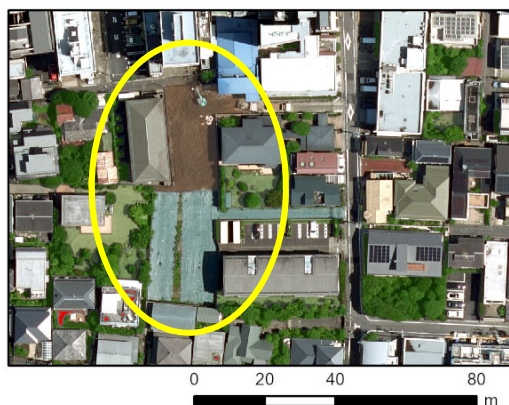
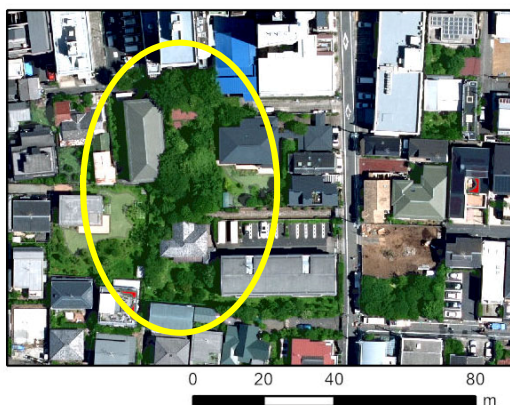
下落合二丁目 更地 (減少：樹林・草地)

左：H27、右：R2



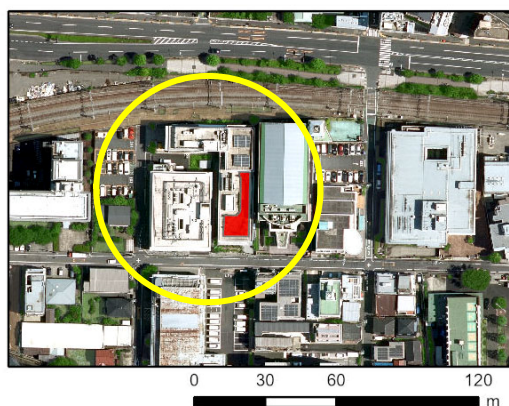
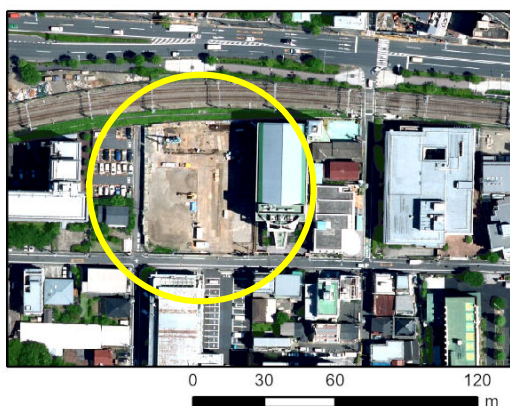
下落合三丁目 更地 (減少：樹木)

左：H27、右：R2



下落合一丁目 下落合図書館 (増加：草地・屋上緑地)

左：H27、右：R2



⑧落合第二地域

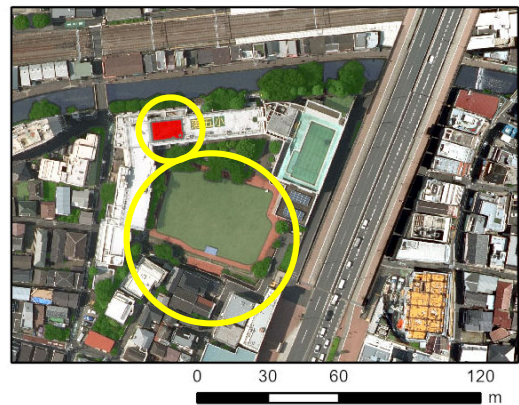
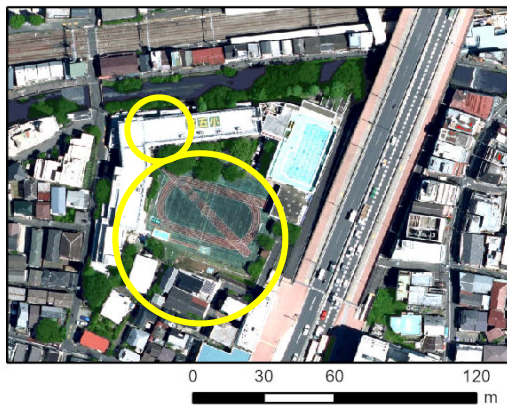
(緑被地面積+0.32ha、樹木・樹林-0.58ha、草地+0.88ha、屋上緑地+0.02ha)

落合第二地域では緑被地面積は0.32ha、緑被率0.23ポイントの増加であった。樹木・樹林は0.58haの減少、草地は0.88ha、屋上緑地は0.02haの増加であった。樹木・樹林の主な減少要因は、住宅建替え等に伴う樹木の伐採によるものであった。草地の増加の主な要因は、落合第五小学校の校庭芝生化、更地の草地化による増加であった。また、主な屋上緑地の増加箇所としては、落合第五小学校の屋上緑地であった。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

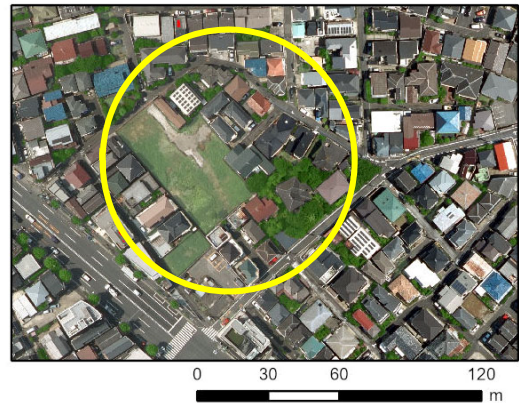
上落合三丁目 落合第五小学校 (増加：草地・屋上緑地)

左：H27、右：R2



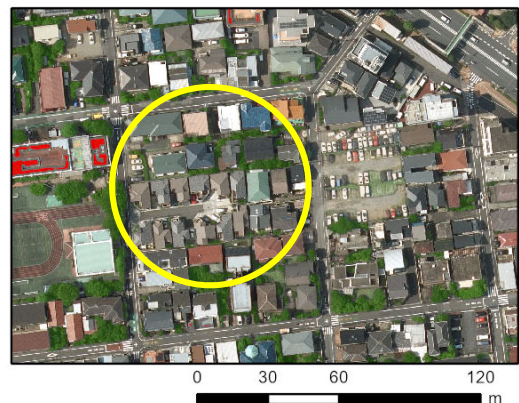
中落合三丁目 更地 (増加：草地、減少：樹木)

左：H27、右：R2



西落合四丁目 住宅の建替え (減少：樹木)

左：H27、右：R2



⑨ 柏木地域

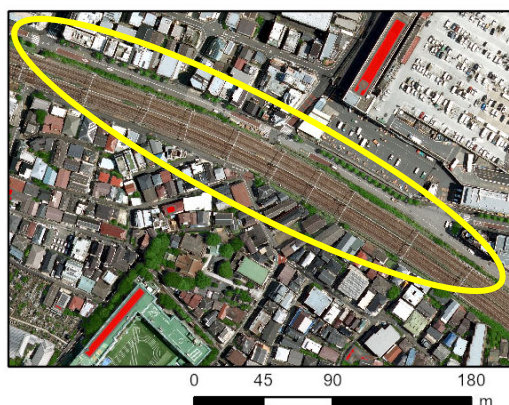
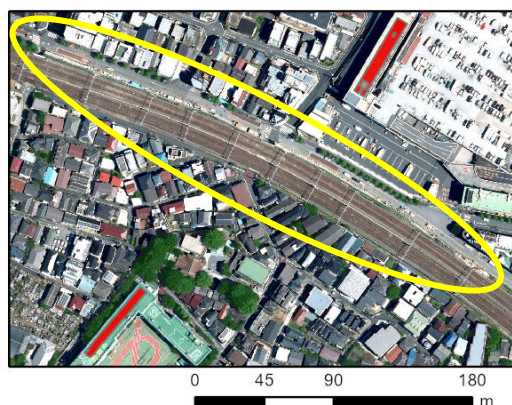
(緑被地面積+1.47ha、樹木・樹林+1.00ha、草地+0.16ha、屋上緑地+0.30ha)

柏木地域の緑被地面積は1.47ha、緑被率は1.19ポイントの増加であった。樹木・樹林は1.00ha、草地は0.16ha、屋上緑地は0.30haの増加であった。樹木・樹林及び草地の主な増加要因は、開発事業による樹木・樹林、草地の整備、建築物の取り壊しによる更地の草地化、軌道敷の草地の増加であった。また、東京医科大学病院の建替えに伴い、樹木、草地、屋上緑地が新たに整備されている。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

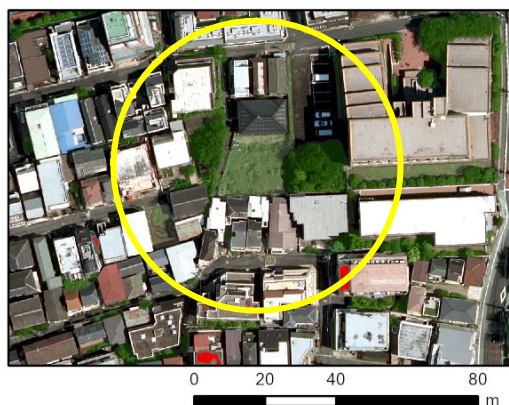
北新宿三・四丁目 JR東日本鉄道敷 (増加：樹木・草地)

左：H27、右：R2



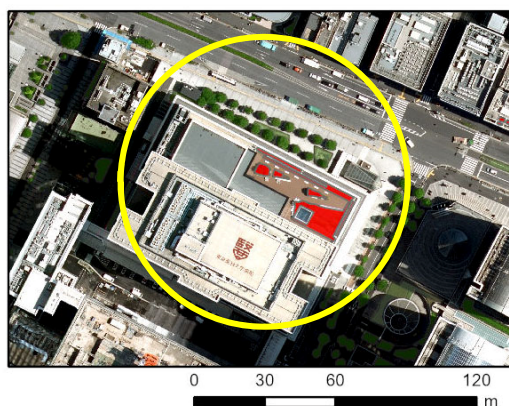
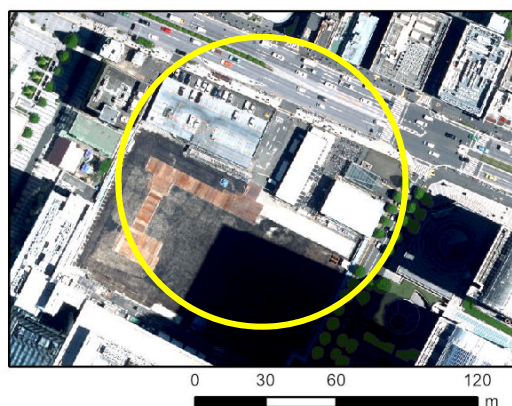
北新宿二丁目 更地での建替え (増加：樹木・草地)

左：H27、右：R2



西新宿六丁目 東京医科大学病院 (増加：樹木・草地・屋上緑地)

左：H27、右：R2



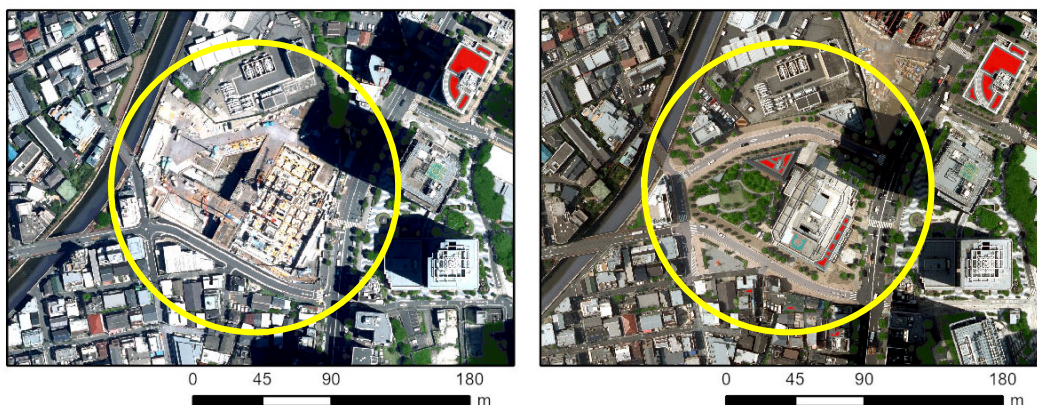
⑩新宿駅周辺地域

(緑被地面積+1.45ha、樹木・樹林+2.36ha、草地-1.10ha、屋上緑地+0.19ha)

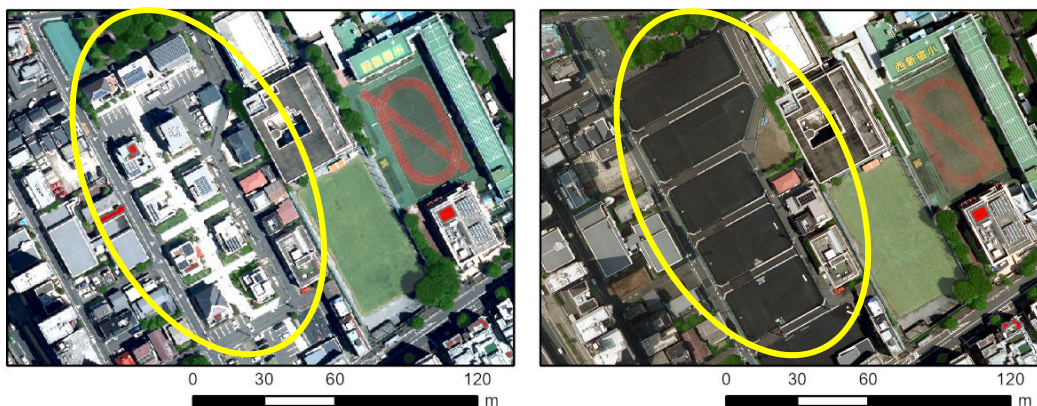
新宿駅周辺地域の緑被地面積は1.45ha、緑被率0.94ポイントの増加であった。樹木・樹林は2.36ha、屋上緑地は0.19haの増加、草地は1.10haの減少であった。樹木・樹林及び屋上緑地の主な増加要因は、西新宿五丁目、六丁目等の開発事業に伴う樹木や草地の整備によるものであった。また、街路樹の生長によって、樹冠面積の増加が確認できた。

凡例： 樹木 草地 屋上緑地

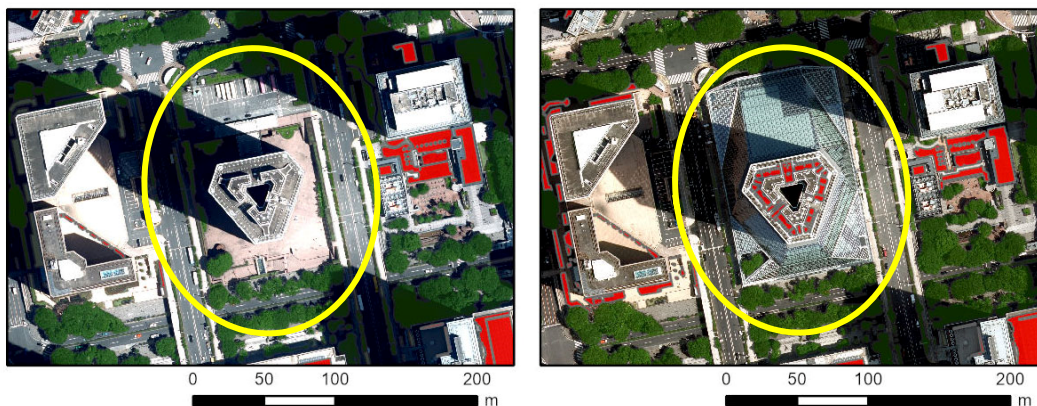
西新宿五丁目 西新宿タワー60 (増加：樹木・草地・屋上緑地) 左：H27、右：R2



西新宿四丁目 新宿住宅展示場跡地 (減少：樹木・草地・屋上緑地) 左：H27、右：R2



西新宿二丁目 新宿住友ビル (増加：屋上緑地、減少：樹木・草地) 左：H27、右：R2



町丁目別の緑被率変化の分布図を図 3-12 に示す。

152 町丁目中、緑被率が増加した町丁目は 103 町丁目であった。また、増加した町丁目のうち、1.0 ポイント以上増加したのは 56 町丁目、0.5 ポイント以上 1.0 ポイント未満の増加が 27 町丁目、0 ポイント以上 0.5 ポイント未満の増加が 20 町丁目であった。

緑被率が減少した町丁目は 49 町丁目あり、1.0 ポイント以上減少したのは 11 町丁目、0.5 ポイント以上 1.0 ポイント未満の減少が 11 町丁目、0 ポイント以上 0.5 ポイント未満の減少が 27 町丁目であった。

1.0 ポイント以上増加した町丁目は区の東側に多い。緑被率が増加した町丁目では比較的規模の大きい建築計画があり、新たに緑被地が増加している。

また、1.0 ポイント以上減少した町丁目は区の北側に多い。緑被率の減少した主な要因も建築計画であり、緑被率の減少した町丁目では、樹林や草地の消失が原因になっている。

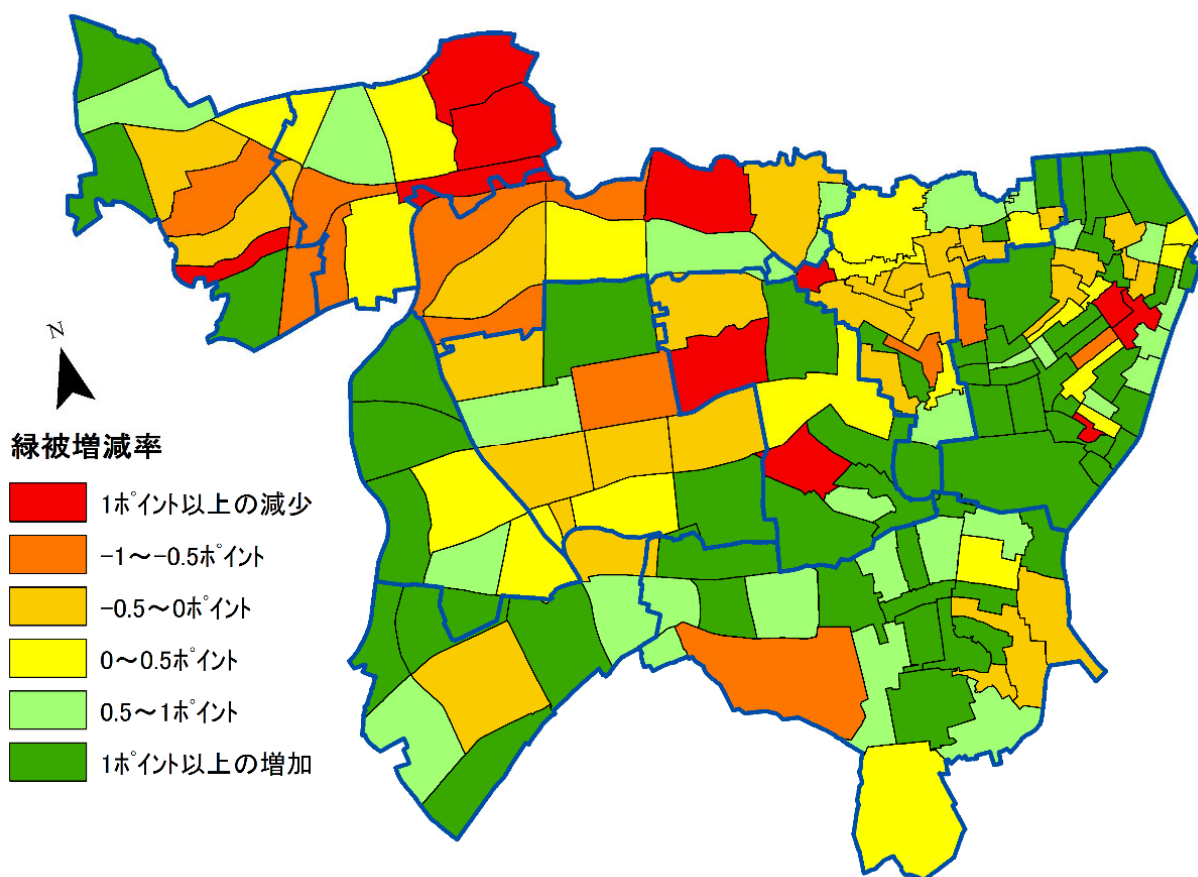


図 3-12 町丁目別緑被率変化分布図

緑被地面積と緑被率の増減の大きな町丁目を表 3-18～表 3-21 に示す。

緑被地面積が最も増加した町丁目は市谷本村町であり、14,120 m²の増加であった。市谷本村町は町丁目面積のおよそ 6 割が防衛省の敷地であり、施設の建替え等に伴い、樹木・樹林、草地、屋上緑地面積が増加している。

緑被地面積の増加が 2 番目に大きい大久保三丁目は、11,529 m²の増加であった。大久保三丁目では新宿ガーデンタワーの大規模な開発事業によって樹木・樹林、草地、屋上緑地面積が増加している。

一方、緑被地面積が最も減少したのは下落合二丁目であり、14,903 m²の減少であった。下落合二丁目では、落合第四小学校の屋上緑地の新設等の増加箇所もあるが、まとまった樹林地が消失しており、減少面積は最も大きい結果となった。

緑被地面積の減少が 2 番目に大きい戸山二丁目は、7,339 m²の減少であった。都営戸山ハイツアパート内の樹木の樹冠面積の縮小、国立国際医療センターの敷地での建築行為に伴う減少によるものである。

緑被率の増加が最も大きい町丁目は神楽河岸であり、5.27 ポイントの増加であった。東京都飯田橋庁舎（セントラルプラザ）にある樹木の生長によって、樹冠面積が拡大したことによるものである。

緑被率の増加が 2 番目に大きい町丁目は市谷左内町で、5.05 ポイントの増加であった。市谷左内町の緑被率の増加要因は、大日本印刷の再開発事業による緑被地の増加であった。

緑被率の減少が最も大きい町丁目は下落合二丁目で、6.36 ポイントの減少であった。下落合二丁目は緑被地面積の減少も最も大きい。面積規模の大きい樹林地が消滅したことによるものである。

緑被率の減少が 2 番目に大きい町丁目は市谷長延寺町で、4.04 ポイントの減少であった。街路樹、集合住宅や個人住宅内の樹木の樹冠面積が縮小しており、緑被率が減少したものである。市谷長延寺町は面積が小さいため、緑被地面積の減少は小さいが緑被率の減少は大きくなっている。

表 3-18 緑被地面積の増加の大きな町丁目

順位	町丁目	増加面積(m ²)
1	市谷本村町	14,120
2	大久保三丁目	11,529
3	戸山一丁目	6,766
4	富久町	5,081
5	北新宿四丁目	5,021
6	北新宿三丁目	3,944
7	西新宿六丁目	3,923
8	西新宿一丁目	3,902
9	西新宿三丁目	3,723
10	四谷本塩町	3,538
11	新宿六丁目	3,034
12	北新宿二丁目	3,027
13	信濃町	2,898
14	市谷加賀町一丁目	2,873
15	西新宿五丁目	2,677

表 3-19 緑被率の増加の大きな町丁目

順位	町丁目	増加率(%)
1	神楽河岸	5.27
2	市谷左内町	5.05
3	市谷鷹匠町	4.93
4	市谷加賀町一丁目	4.65
5	四谷本塩町	4.32
6	市谷本村町	3.66
7	大久保三丁目	3.49
8	戸山一丁目	3.23
9	北町	3.18
10	市谷山伏町	3.14
11	市谷甲良町	3.05
12	納戸町	3.05
13	市谷仲之町	2.90
14	市谷田町二丁目	2.83
15	北山伏町	2.66

表 3-20 緑被地面積の減少の大きな町丁目

順位	町丁目	減少面積(m ²)
1	下落合二丁目	-14,903
2	戸山二丁目	-7,339
3	下落合三丁目	-4,666
4	内藤町	-4,622
5	西早稲田三丁目	-2,847
6	高田馬場三丁目	-2,339
7	余丁町	-2,075
8	中井一丁目	-2,046
9	大久保二丁目	-1,848
10	下落合一丁目	-1,583
11	上落合二丁目	-1,515
12	中落合四丁目	-1,491
13	中落合一丁目	-1,320
14	西早稲田一丁目	-1,203
15	高田馬場四丁目	-916

表 3-21 緑被率の減少の大きな町丁目

順位	町丁目	減少率(%)
1	下落合二丁目	-6.36
2	市谷長延寺町	-4.04
3	戸山二丁目	-3.39
4	中井一丁目	-2.66
5	袋町	-2.61
6	下落合三丁目	-2.13
7	若宮町	-1.97
8	余丁町	-1.57
9	馬場下町	-1.52
10	下落合一丁目	-1.19
11	西早稲田三丁目	-1.15
12	中落合一丁目	-0.97
13	内藤町	-0.97
14	原町一丁目	-0.94
15	高田馬場三丁目	-0.84

2-3 土地用途別の緑被地の推移

平成27年度（第8次）調査と令和2年度（第9次）調査の土地用途別の緑被地の推移を表3-22、図3-13に示す。

緑被地面積が最も増加した土地用途は集合住宅で、3.00haの増加であった。次いで、商業地の2.43ha、公共施設の2.39ha、その他の1.97haであった。集合住宅は敷地面積の増加も最も多い17.71haの増加であり、集合住宅の新たな整備に伴い、緑被地も整備されたことによる増加と考えられる。商業地の敷地面積は12.77haの減少となっているが、国立競技場が平成23年土地利用データではスポーツ施設（商業施設）から平成28年土地利用データでは工事中のため未利用地（その他）となったためである。商業地では、市谷加賀町一丁目における市谷の杜（大日本印刷市谷工場整備計画）、霞ヶ丘町における三井ガーデンホテル神宮外苑の杜プレミア等の開発事業によって、新たに緑地が整備されたことにより、緑被地が増加している。

一方、緑被地面積が減少したのは個人住宅の2.27ha、公園の0.38ha、工業地の0.37haであった。個人住宅では敷地面積も5.00ha減少しており、庭木等のある個人住宅が集合住宅等に建替えられる際に樹木・樹林が伐採されたことで、緑被地が減少したと考えられる。

緑被率の増加が最も大きい用途は公共施設で、1.98ポイントの増加であった。減少が最も大きい用途は個人住宅で0.53ポイントの減少であった。

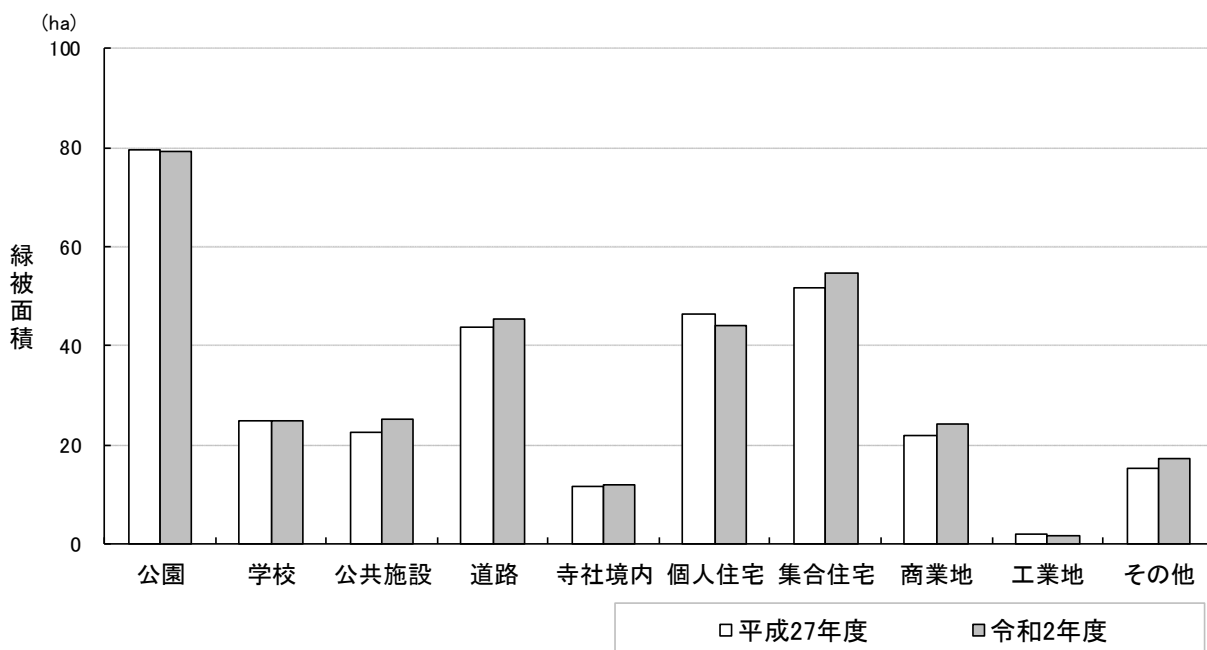


図3-13 土地用途別緑被面積の変化

表 3-22 土地用途別の緑被地の推移

上段:左側 敷地面積 (ha) (右側) 区全体の土地用途の割合(%)
 下段:左側 緑被地面積(ha) (右側) 緑被率(%)

土地用途		平成27年度 (第8次)		令和2年度 (第9次)		緑被の変化		
公園		117.30	(6.43)	117.35	(6.43)	0.05		
		79.54	(67.81)	79.16	(67.46)	△ 0.38	△ 0.35	
学校		111.30	(6.10)	110.29	(6.04)	△ 1.01		
		24.79	(22.27)	24.96	(22.63)	0.17	0.36	
公共施設		98.70	(5.41)	100.47	(5.50)	1.77		
		22.69	(22.99)	25.08	(24.97)	2.39	1.98	
道路		362.11	(19.84)	364.80	(19.98)	2.69		
		43.70	(12.07)	45.48	(12.47)	1.78	0.40	
寺社境内		37.40	(2.05)	38.26	(2.10)	0.86		
		11.62	(31.07)	11.92	(31.16)	0.30	0.09	
住宅・事業所等	個人住宅	272.54	(14.93)	267.54	(14.66)	△ 5.00		
		46.30	(16.99)	44.03	(16.46)	△ 2.27	△ 0.53	
	集合住宅	385.27	(21.11)	402.98	(22.08)	17.71		
		51.72	(13.43)	54.72	(13.58)	3.00	0.15	
	商業地	306.78	(16.81)	294.01	(16.11)	△ 12.77		
		21.76	(7.09)	24.19	(8.23)	2.43	1.14	
	工業地	36.78	(2.01)	30.26	(1.66)	△ 6.52		
		1.88	(5.11)	1.51	(4.98)	△ 0.37	△ 0.13	
	その他	97.21	(5.31)	99.43	(5.44)	2.22		
		15.14	(15.57)	17.11	(17.21)	1.97	1.64	
	区全体		1,825.40	(100.00)	1,825.40	(100.00)	-	
			319.14	(17.48)	328.16	(17.98)	9.02	0.50

*面積、割合は小数第3位を四捨五入しており、集計値があわない場合がある。

2-4 用途地域別の緑被地の推移

平成27年度（第8次）調査と令和2年度（第9次）調査の用途地域別の緑被地の推移を表3-23に示す。

緑被地面積が最も増加した用途地域は商業地域で、4.08haの増加であった。次いで、第一種住居地域が2.44ha、第二種住居地域が1.92haの増加であった。一方、緑被地面積が最も減少した用途地域は、第一種低層住居専用地域で1.32haの減少であった。次いで、第一種中高層住居専用地域で0.69haの減少であった。

緑被率では、最も緑被率が増加した用途地域が第二種住居地域で1.83ポイントの増加、次いで第二種中高層住居専用地域が1.51ポイントの増加であった。緑被率が減少した用途地域は第一種低層住居専用地域の1.06ポイント、第一種中高層住居専用地域の0.16ポイントの減少であった。

表3-23 用途地域別の緑被地の推移

上段:左側 敷地面積 (ha) (右側) 区全体の用途地域の割合 (%)
下段:左側 緑被地面積(ha) (右側) 緑被率(%)

用途地域 [建ぺい率]	平成27年度 (第8次)		令和2年度 (第9次)		緑被の変化	
	敷地面積 (ha)	割合 (%)	敷地面積 (ha)	割合 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
第一種低層住居専用地域 [50・60%]	124.90	(6.84)	124.91	(6.84)	0.00	
	28.65	(22.94)	27.33	(21.88)	△ 1.32	△ 1.06
第一種中高層住居専用地域 [60%]	424.40	(23.25)	424.40	(23.25)	0.00	
	114.62	(27.01)	113.93	(26.84)	△ 0.69	△ 0.16
第二種中高層住居専用地域 [60%]	84.26	(4.62)	84.27	(4.62)	0.01	
	16.94	(20.10)	18.22	(21.62)	1.28	1.51
第一種住居地域 [60%]	391.65	(21.46)	391.66	(21.46)	0.01	
	73.09	(18.66)	75.54	(19.29)	2.44	0.62
第二種住居地域 [60%]	104.49	(5.72)	104.51	(5.73)	0.02	
	18.83	(18.02)	20.75	(19.86)	1.92	1.83
近隣商業地域 [80%]	91.75	(5.03)	91.75	(5.03)	0.00	
	7.45	(8.12)	7.85	(8.55)	0.39	0.43
商業地域 [80%]	488.46	(26.75)	488.44	(26.74)	△ 0.02	
	45.42	(9.30)	49.50	(10.13)	4.08	0.84
準工業地域 [60%]	115.48	(6.33)	115.46	(6.33)	△ 0.02	
	14.12	(12.23)	15.05	(13.03)	0.92	0.80
区全体	1,825.40	(100.00)	1,825.40	(100.00)	-	
	319.14	(17.48)	328.16	(17.98)	9.02	0.49

*面積、割合は小数第3位を四捨五入しており、集計値があわない場合がある。

～ 新宿に暮らす動物たち ～

「カルガモ」「ハヤブサ」「カワセミ」……この中で、新宿区内で見られる野鳥はどれだと思いますか？ 繁華街や高層ビル街のイメージが強い新宿区では、カラスやスズメ、せいぜいヒヨドリかムクドリくらいしかいないのでは、と思われるかもしれませんがね。

実は、「すべて見られる」が正解なんです。

冬に神田川や妙正寺川を覗いてみると、おなじみのカルガモの他にも、黒くて長い尾羽がおしゃれなおナガガモや青緑色の頭が鮮やかなマガモ、一回り小さなコガモが泳いでいるのを見られることがあります。時には、カモの仲間に交じて、白さが眩しいコサギや黒っぽいカワウなどが川面に佇んでいることも。ちなみにカルガモだけは、年中見ることができます。雛を育てていることもあるので、見かけたときは温かく見守ってあげてくださいね。

ハヤブサは、高層ビルの壁をもともとの棲みかである断崖に見立てて巣を作っているようで、新宿中央公園の上空で何度か確認されています。都会派ですね。仲間のチョウゲンボウも、同じように高層ビルに住んでいるようです。他にも、ハイタカやトビ、ツミなどの小型の猛禽類が新宿区内を訪れたり暮らしたりしています。

美しい羽の色で有名なカワセミも、おとめ山公園や神田川周辺で確認されています。おとめ山公園を散策していると、水辺で魚やザリガニなどをねらっているカワセミを見つけることができるかもしれません。

野鳥の他にも、昆虫から哺乳類まで、新宿で生きる動物は思いのほか多いのです。

新宿区では、平成28年度におとめ山公園、新宿中央公園、西早稲田周辺の神田川を対象地域として、生き物調査を行いました。確認できた生き物の数は、哺乳類3種、鳥類57種、両生・爬虫類6種、昆虫類385種、魚類などの水生生物が34種となっています。

区内には、調査では確認できていない種類の動物もまだまだたくさんいると思います。お近くで気になった動物などを見つけたら、ぜひ区までお知らせください。

皆様の生きもの情報をお待ちしています。



カルガモ



ハヤブサ

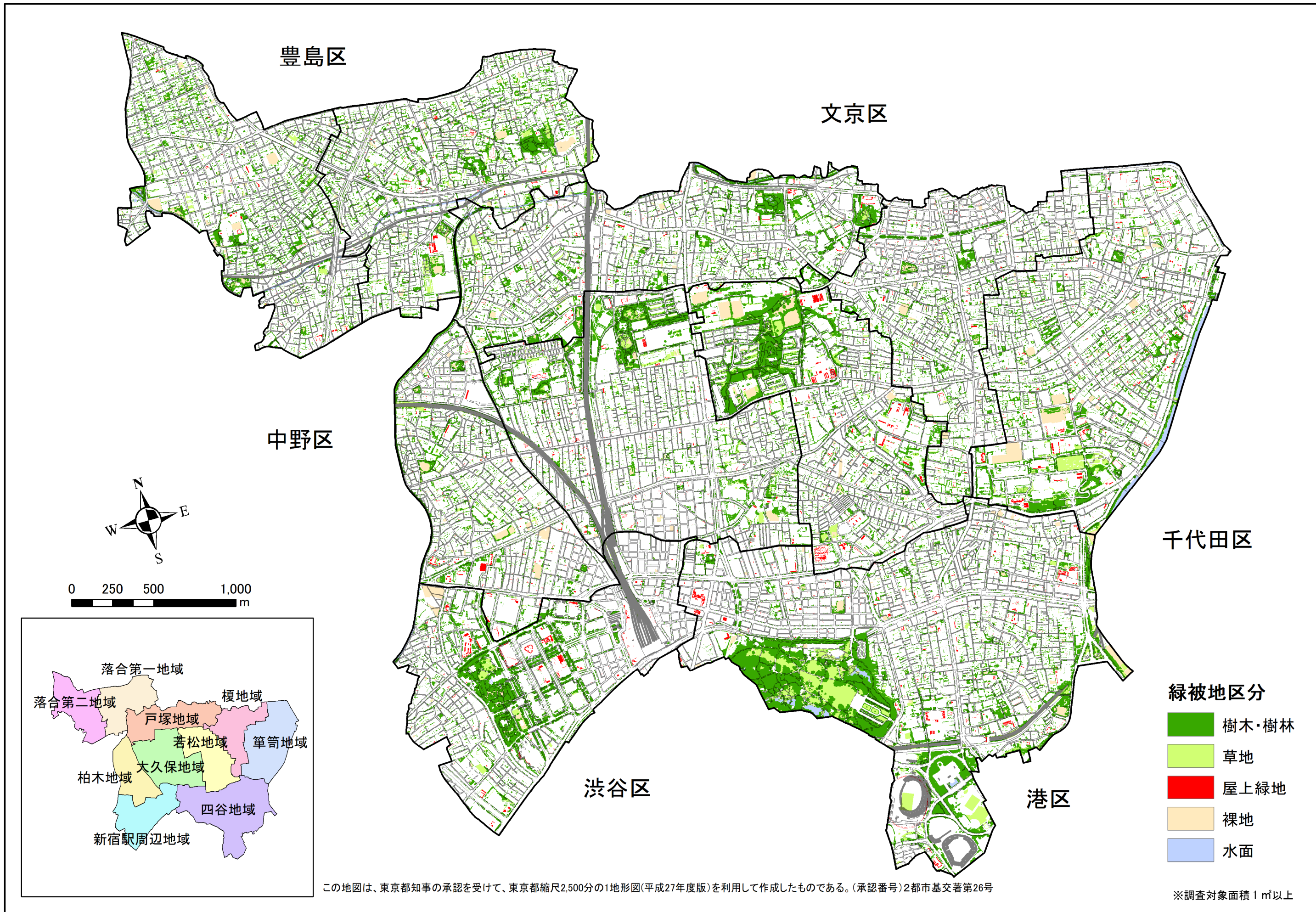


カワセミ

おとなしいヘビです！
いじめないでね。



アオダイショウ



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図(平成27年度版)を利用して作成したものである。(承認番号)2都市基交著第26号

※調査対象面積 1 m²以上

図 3-14 緑被分布図